

1-2-1 学校経営計画

1 経営理念 心豊かで、未来をたくましく生き抜く人づくり

2 教育目標 「智仁勇 未来を拓く生徒の育成」

3 中長期経営目標

(1) 学校の現状と課題

- ① 安中プライドの意識化による成果（丁寧な挨拶、無言清掃、思いやり）
- ② 生徒の主体性を育む学校行事や生徒会活動の充実による成果
- ③ 生徒の学習意欲の向上のための各種取組の推進、授業改革の推進

(2) 目指す学校像～「笑顔と感動があふれる学校」を目指して

- ① 生徒・教職員がいきいきと活動できる学校
- ② 保護者・地域から信頼され、安全・安心に生活できる学校

(3) 目指す生徒像

- 「智」 求めてやまぬ生徒
「仁」 思いやりのある生徒
「勇」 自ら行動できる生徒

(4) 目指す教師像

- ① 自ら進んで学び、成長し続ける教師
- ② 生徒一人一人の思いに寄り添い、成長を支える教師
- ③ 教師としての使命感をもち、生徒ファーストの学校づくりに努力を惜しまない教師
- ④ 教育のプロとしての誇りをもち、生徒にとって「生き方の範」となる教師

4 短期経営目標

(1) 豊かな人間性の育成（規律ある行動・自己有用感の醸成）

- ・一人一人の生徒や生徒集団の言動・努力していること・成長していることを「認める・価値づける」ことによる自己有用感を高める取組の推進

具体的な取組

- ◇安中プライド（丁寧な挨拶、無言清掃、思いやり）のさらなる浸透
- ◇思いやりの心づくり（人の喜びを自分のことのように喜べる心）～道徳授業の充実
- ◇生徒の主体性を育む活動の推進
 - 〔授業〕生徒が思考し、積極的に表現する授業
友だちの考えや学びを傾聴する授業（聴き合う授業）
 - 〔小学校〕読み聞かせ、学習サポート、合同挨拶運動、部活動体験、体験入学
 - 〔中学校〕永平寺中との交流（無言清掃）
- ◇安中サミットの充実

(2) 確かな学力の育成

- ① 「わかった・できた」と実感でき、生徒が思考する授業づくりの推進

具体的な取組

- ◇学習に対する意欲が向上するための生徒主体の授業づくりの推進
 - ・授業における主体的・対話的な深い学びの推進
（教師主導・一問一答・教え込みの授業からの脱却）
 - ・安中スタイルのさらなる推進
（ねらいの明確化、学習課題とまとめの一致、個人思考の場の設定、学び合い、振り返りの充実、学習内容の定着）
- ◇授業改革を進めるための校内研修会・教科部会の充実
- ◇GIGAスクール構想（生徒一人1台のタブレット導入）による学びの進化
- ◇SDGsの教育課程への位置づけ

②学校と家庭との取組の強化

具体的な取組

◇よりよい生活リズム

- ・3点固定の徹底（起床時刻・家庭学習時刻・就寝時刻）
- ・家庭学習の習慣化

◇授業と家庭学習の連携強化（家庭学習計画、学び方ブック作成）

◇英検をはじめとする各種資格取得へのチャレンジ

◇長期休業中の補充学習の充実

③体験を重視し、夢や目標を持ち積極的に学習に取り組むキャリア教育等の充実

具体的な取組

◇地域貢献活動の充実…地域活性化クラブ、海岸清掃、資源回収

◇地域資源を取り入れた教育活動の推進…SDGsの教育課程への位置づけ

◇キャリア教育の視点での学級活動・職場体験の推進…キャリアパスポートの積極的活用

◇進路学習の充実

高校生による体験講話（3年）、高校訪問（2年）、職業人講話（1年）

（3）たくましくいきるための健やかな体の育成

①安全・安心な学校生活を送るための健康教育の推進

各種健康診断後の通院率・治癒率の向上、感染症対策への意識向上

②部活動の活性化 体力と規範意識の向上を進めるとともに、効率的効果的な活動を意識する。

（水曜日・日曜日の部活動休養日の設定）

③WYSH教育の推進

④情報モラル教育の推進及び家庭との連携により、望ましい生活習慣の形成を図る。

（4）組織の活性化と人材育成

「組織」とは、互いに助け合い高め合う機能のことである。教職員全員がチームの一員としての自覚をもち、互いに「高め合う、支え合う、学び合う」集団であるとき、組織は活性化する。そして、そんな職場環境が人材を育成することは明らかである。

「和」の精神

【以和為貴（和を以て貴しとなす）】 聖徳太子 17条の憲法

一般的に、その意味は仲良くすることが何よりも尊いことであるということになっていますが、本来の意味は、和（やわらいだ雰囲気）の中で、皆で話し合い、物事を協調（力を合わせて取り組む）して進めることが大事であるということを示します。

人はそれぞれの考えをもっているので、意見が違って当然。だからこそ、皆で話し合いをして物事を決めなさいと言っています。しかし意見が通らないと、人はその人のことを【愚人】だと言い、自分のことを【聖人】だと思いが、互いに【凡人】に過ぎないとも言っています。

つまり、争いを避けるために相手に「同調（他に調子を合わせること）」するのではなく、お互いに納得がいくまで「協調（互いに譲り合って調和していこうとすること）」することが大切なのです。

- ・教職員一人一人が、学校運営（生徒の育成）を推進しているという意識をもつ。
- ・教職員間のコミュニケーションとリスペクトを大切にする。
- ・教職員全員が共通理解のもと、ベクトルをそろえて教育活動を推進する。

（学校行事、生徒会活動、学級経営等）